

生化学検査 検査項目解説②

総コレステロール (T-CHO)

ホルモンや細胞膜を作り変えるうえで大切な物質です。しかし増えすぎると動脈硬化を進めます。数値が高い場合は高脂血症、甲状腺機能低下症、低い場合は甲状腺機能亢進症、低栄養などが疑われます。

中性脂肪 (トリグリセリド)

体内で最も多い脂肪で、糖質がエネルギーとして脂肪に変化したものです。数値が高いと動脈硬化を進行させます。低いと低βリポたんぱく血症、低栄養などが疑われます。

HDLコレステロール (善玉コレステロール)

善玉コレステロールと呼ばれるものです。血液中の悪玉コレステロールを回収します。少ないと動脈硬化の危険性が高くなります。

LDLコレステロール (悪玉コレステロール)

悪玉コレステロールと呼ばれるものです。LDLコレステロールが多すぎると血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させます。

血糖値

血液中のブドウ糖濃度で、エネルギー源として全身に利用されます。数値が高い場合は糖尿病、膵臓がんが疑われます。

HbA1c (ヘモグロビンエーワンシー)

過去1~2か月の血糖の平均的な状態を反映するため、糖尿病のコントロール状態がわかります。

尿酸

タンパク質の一種であるプリン体という物質が代謝された後の残りかすのようなものです。この検査では尿酸の産生・排泄のバランスが取れているかどうかを調べます。尿酸が高い状態が続くと、結晶として関節に蓄積し、関節痛を起こします。これを痛風発作と言います。また尿路結石も作られやすくなります。